

できた！

わかった！

たのしいよ！

パートⅡ

～そう感じることができる保育を～



大阪市こども青少年局保育施策部保育所運営課



はじめに

大阪市では、発達障害の早期発見・早期理解・早期支援の観点から、保育所における発達障害のある子どもの支援充実のため、平成21年度から3年間『発達支援モデル研究』に取り組んできました。その後、モデル保育所を中心とした公立保育所での実践・検証と、民間保育所への支援の共有・普及を行い、保育士の専門的スキルの向上と、人材育成を進めてきたところです。

この冊子は、平成24年3月に作成した【発達支援プログラム冊子 できた！わかった！たのしいよ！】の続編としてまとめたものです。今回は、冊子を活用しながら個別の支援に取り組む中で保育士の気づきが深まり、より一人一人に応じた支援を行った具体例や、早期理解の観点から、乳児期における保育の振り返りによって、早期に子どもの困りを理解することの大切さ、そして早期支援の為の保護者連携について紹介しています。

発達障害を含め障がいのある子どもたちには、早期からの支援が必要で、保育所においても子どもの困りに気づき、保護者や関係機関と連携して、子どもの特性を生かした適切な支援を行うことが大切であると考えます。

1冊目に続きこのパートⅡが、日常生活において発達障害のある子どもを中心に、保育場面での困りを理解するための参考となり、一人一人の保育所生活が充実したものになるよう、活用していただきたいと思います。

平成27年3月

大阪市こども青少年局保育施策部保育所運営課

もくじ

はじめに

第 1 章 個別の状況に応じた具体的支援について（応用編） ···· 1

- わかり、自分でできるための支援
- 感覚過敏を和らげるための支援
- わかり、自分でできるための支援（制作活動）
 - ・顔がイメージしにくい場合の支援
- 全体活動に参加しやすくするための支援
 - ・個別指導計画 沈黙の練習
- コミュニケーションを円滑にするための支援
- 切りかえの弱さを補うための支援＜共に育ち合う＞
- 不安感を和らげるための支援
 - ・個別指導計画 遊びのひと工夫
- 行事に参加するための支援
 - ・個別指導計画
- ちょっとひと工夫

第 2 章 乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項
(チェックリスト) の活用について ···· 15

- 個別の状況における事例より
- 乳児支援グッズ
- 乳児保育室の構造化

第 3 章 保育所内支援体制づくり～保護者と共にすすめる支援～ ···· 25

- 個別支援計画と個別指導計画の作成と支援の流れ
- 計画作成と支援の流れ
- 保護者支援の流れ（タイムスケジュール）
- 保護者の心情理解

できた！わかった！たのしいよ！パートⅡの刊行にあたって

大阪府立大学准教授 里見恵子

第1章 個別の状況に応じた具体的支援について（応用編）

◇ 支援の始まりは気づきから

冊子【できた！わかった！たのしいよ！】に掲載しましたように、気になる子どもの姿（サイン）に気づき、共感することから支援を行なってきました。

子どもの行動を観察し、どの部分につまずきがあるのかを見極め、必要な支援を考えていますが、支援を継続していても子どもの姿（困りごと）が変わらない時や、成長に伴ってこれまでとは違う子どもの姿（困りごと）が出てきた時、行っている支援の内容を見直さなくてはなりません。

今どのような状態にあるのか、子どもの行動をよく観察し、どのようなことが得意でどのようなことが苦手で、そしてどのような支援が必要なのか、発達障害の特性を捉え、それを生かした一人一人に合った適切な支援方法を考えましょう。

◇ 一人一人にあった支援を目指して

冊子【できた！わかった！たのしいよ！】の第1章、個別の状況に応じた具体的支援を試みてくださった方々から、「参考になった。」という声が多数あった中、「実際に支援をしてみたが、うまくいかなかった。」という声もいただきました。発達障害の特性は共通していても子どもの姿は一人一人違い、同じ支援ではうまくいかないこともあります。

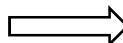
一人一人にあった支援を目指してパートⅡの第1章では、いろいろな場面で行った支援と、その支援による子どもの状況でうまくいかなかつたことに焦点を当て、<なぜうまくいかなかつたのか>を振り返りました。そのうえで、子どもの姿と特性の捉え方が合っていたのか、具体的の支援が合っていたのか、困りだけでなく強みを生かした支援となっていたのか、を見直し、次に行った一人一人への支援による効果と、集団で過ごす良さを生かし、集団で共に育ち合う支援の具体的な状況を紹介します。

紹介している具体的支援が、個別指導計画の中で示されていますので合わせてご覧ください。

行事に参加するための支援

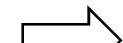
[児童の姿]

はじめてのことや、行事になかなか参加できない。



[具体的な支援]

・スケジュールを書いたり、ビデオなどで当日することを伝えたり、お客様が見に来ることも伝えておく。



[具体的な状況]

・活動も理解して、お客様が見にくることもわかっていたが、1回目の予行では見られていること、視線を感じることが嫌で参加できなかった。

POINT



行事では、**当日に向けてのシミュレーション**が非常に大切です。まず、一人一人の状況に応じて具体的に当日することを知らせていきます。しかし、することがわかつても参加できない、ということもあるので、その理由が何であるかを考えて対処することが必要です。

[その後の具体的な支援]

・舞台の木の陰に隠れて視線を避けられる場所を作り、不安になったらその場所に入れるようにする。

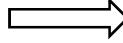


[その後の具体的な状況]

・発表会当日は、木の陰に隠れ会場の様子を見ながら、自分で出られるところは出ることで参加することができた。視線を避けられる場所を設ける事で、不安が和らぎ参加できた。

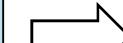
[児童の姿]

言葉で伝えるだけでは、運動会の取り組みの流れが理解しにくい。



[具体的な支援]

・ミニスケジュール帳を作り、具体的に当日の流れや動きを伝え、確認する。



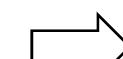
[具体的な状況]

・ミニスケジュール帳に、書かれてない事が起きて泣いてしまう。



[その後の具体的な支援]

・困ったことが起きた時には、この保育士に言うようにと、名前といふ場所を伝えておく。



[その後の具体的な状況]

・予想外のことが起きた時でも「だいじょうぶ」と対処法を知らせておくことで、安心してとりくむことができた。

個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 行事の時には、みんなと一緒に参加できるようになってきた。 リレーや鬼ごっこやドッジボールなどのゲームの途中で転んだり、予想外のことがあると、落ち込んで参加できなくなることもあるが、気持ちを立て直すことができる時もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の時に予想外のことが起きるなど、困ったことがあった時には保育士に言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 転ぶ・ぶつかる・間違える・バトンを落とす、など予想されるトラブルについてあらかじめ話をしておく。『何かあっても最後まで泣かずに参加』することをクラスルールとして話していく。 スケジュール帳であらかじめ活動の内容を話し、疑問点を聞いたり、保育士の位置を具体的に知らせたりすることで、困ったことがあったらどうしたらいいかを伝える。スケジュール帳にない事が起きてても、保育士に伝えたらよいことを話す。 頑張ったことは十分に褒める。 	<ul style="list-style-type: none"> 予行練習では、転んだり竹馬のテープがはずれたりして泣いて落ち込んではしまったが、何かあったらどうしたらいいか具体的に話をしていく事で当日は安心して参加することができた。 日常の色々な場面で、わからないことは「せんせい、どうしたらいい?」と聞く姿が少しずつ見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の時には、保育士の位置をあらかじめ伝える事で不安を取りのぞき、落ち着くことができた。 日常の場面でも、困ったことや嫌なことがあった時には、保育士に伝えに行けるようにしていく。
この内容の支援でお願いします。			保護者氏名		



ちょっとひと工夫！ 視覚支援の工夫やポイントを紹介します。

個別の状況に応じた具体的支援（応用編）とあわせて活用してください。



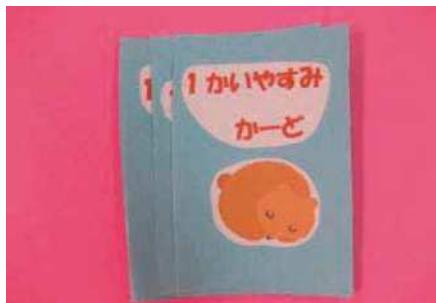
ステンシル（型抜き）～絵を描くことが苦手な子どもが達成感を味わえるためのひと工夫～ ①

描こうとする絵の型を用意し、型の周りを画材（クレパス・筆・タンポ・鉛筆など）でふちどったり、型の中を色づけしたりします。出来上がったら、型をはずします。



沈黙の練習 ②

「今から3枚の絵カードを見せますが、何の絵か分かっても言わずに覚えておいてくださいね。」と言ってから、絵カードを見せます。この練習を繰り返すと、外言語を内言語化することや、記憶力（ワーキングメモリ）を養うことにもつながります。



すごろく1回休みカード ③

1回休みの目に入った時に、1回休みカードを取り、次の順番の時に出します。
カードを出すことで、順番をとばされるという不安を和らげることができます。

おかわりしつぽとり ④

しつぽを取られても、所定の場所からしつぽをもらうことができ、引き続き遊びに参加できるようにします。
取られて終わりではなく、また参加できるということで安心できます。

学校すわり

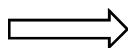
前を向く習慣をつけることによって、話を聞くことに集中しやすくなります。学校の授業を受ける練習につながります。



わかり、自分でできるための支援

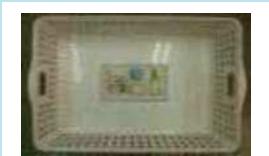
[児童の姿]

気が散りやすく
登所の準備がスムーズにできない。



[具体的支援]

- まとめてできるように、絵のついたカゴを使って用意する。



[具体的な状況]

- カゴに全部入れることを拒み、今までどおりリュックサックから1つずつ出す方法にこだわる。
- カゴを使うか、使わないか、ということに気が散って登所の準備がスムーズにできない。

-2-

[その後の具体的支援]



[その後の具体的な状況]

- 1つずつ用意するやり方を選び、見守られながら自分で用意をする。
- 「見ててや。」と言いながら、スムーズにできるようになる。

POINT



- 周りに気が散りやすいため、動線を整理していきます。
- 自分で選んだことで、スムーズになります。
- 集中できるように、タイムタイマーを使用して、時間を示すのもいいですね。

感覚過敏を和らげるための支援

[児童の姿]

のりの感触が苦手で、のりを使った制作活動を嫌がる。

[具体的支援]

- ・直接のりを触らなくていいように、筆でのりづけをしてみる。

[具体的な状況]

- ・のりが手につくたびに手を洗いに行くので、制作活動が中断する。
- ・筆を使うのりづけであると、自分でもするようになるが、少しでも手につくと嫌でやめてしまう。

POINT



のりを使った制作活動では、指先を使うことにポイントを置きがちですが、のりの感触が苦手な子どもには、ステッカのりを使用し、手が汚れないようにすることで、制作活動を楽しめる工夫もできますね。

[その後の具体的支援]

- ・のりづけの時にすぐに手が拭けるように、濡れたタオルを置くようにする。



[その後の具体的な状況]

- ・1回1回手を拭きながら、嫌がらずにのりづけをするようになる。

わかり、自分でできるための支援 (制作活動)

[児童の姿]

絵を描くのが苦手。
紙を前にもな
かなか描けない。

[具体的支援]

- 保育士が側について、イメージできる絵本などを一緒に見ることで、色や形などのイメージを確認する。



[具体的な状況]

- 絵本を見るだけでは、描こうとはしない。

→
→

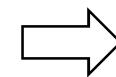
POINT



絵のイメージの弱さを補うために、保育士が形を途中まで描いて続きを描くことをすすめたり、色を塗ることを任せたりして、最後の仕上げを子ども自身がすることで、達成感を味わう事ができるようにするとよいです。

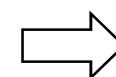
[その後の具体的支援]

- こどもが「チューリップの絵を描いて」と言ったので、保育士が、チューリップの花の形を描き、「色は自分で塗ってね。」と、色を塗ることをすすめる。



[その後の具体的な状況]

- 色を塗ることは集中してやりとげ、できあがったことに満足して、他の先生に見せに行く。



絵を描くことが苦手なこどもが、達成感を味わえるためのひと工夫

- 描くきっかけ作りとして色塗りや、顔なら目だけ描いてみるようとする。
- 絵描き歌に合わせて描く。
- 保育士が描いた絵を真似っこする
- ステンシル（型抜き）をする。…P14①
- 経験したことを写真に撮っておき、写真を見ながら描けるようにする。

顔がイメージしにくい場合の支援

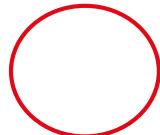
● 絵を描く前にやってみましょう

- ・ボディイメージのできる遊びをしてみる。
「目はどこかな?」「顔の真ん中にある鼻はどこかな?」などと言って、各部分を触る。etc.
- ・○△□の構成あそび

● 今度は一緒に描いてみましょう

- ・「顔の形はどんな形かな?丸?○ 四角?□ 三角?△」(○△□を描いて見せても良い。)

- ・「じゃあ、先生が○を描くよ。」



POINT
**形は、保育士が描いて
あげるとよい。**

- ・「真ん中に鼻を描いてみようか。」



POINT
**最初に鼻を描くと、他の
パーツも位置をといやすい。**

- ・「目の上に眉毛を描いてみよう。」



- ・「鼻の両側に目を描いてみよう。」



POINT
**絵を描くことがかなり苦手
ならば、口を仕上げることが
できたところで完成としてもよい。**

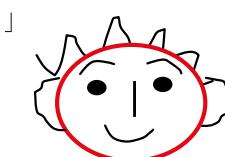
- ・「鼻の下に口を描いてみよう。」



- ・「目の横に耳を描いてみよう。」



- ・「最後に髪の毛を描いてみよう。」



全体活動に参加しやすくするための支援

[児童の姿]

歌を歌っている時に、じっとしていることが難しく、その場から離れる。

POINT

いつまでその場にいるのかがわからないようだったので、歌詞を見せて始めと終わりがわかるようにすることで安心して参加することができます。

歌詞カードがあると終わりがわかりやすいのと同じで、劇遊びの時に小さい台本、行事の時にミニスケジュール帳を持っておくのも有効です。

[具体的な支援]

- 立つ位置に、足型マットを用意する。

[その後の具体的な支援]

- 歌詞を書いた、小さな手持ちカードを見せる。



[具体的な状況]

初めてマットを使用した時には、立っていることができたが、2回目以降は効果がなかった。

[その後の具体的な状況]

歌詞を指で追いながら、その場でじっと立つことができた。
(歌詞があると終わりが分かりやすいようだ)

[児童の姿]

我先に思ったことを口に出して言う

POINT

約束したことを守り、発言したい気持ちをとどめている姿を認め「よく我慢できたね。」と言葉をかけることが大切です。

[具体的な支援]

- 『※しゃべりませんカード』を見せ、今は静かにすることを知らせる。

[具体的な状況]

静かにする約束はわかっているけれど、思ったことをすぐに口にしてしまう。

[その後の具体的な支援]

- 朝の会で沈黙の練習をする。その時は、黙って静かにすることをみんなで約束する。

[その後の具体的な状況]

両手で頭を押さえ、発言したい気持ちをとどめている。

※『しゃべりませんカード』…「できた！わかった！たのしいよ！」 P16 参照

個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
社会性	<ul style="list-style-type: none"> 「手をあげて言う」「静かに」のクラスルールはわかっているものの、思ったことをつい口にしてしまい、みんなが静かにしておく場面でもしゃべってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 「沈黙の練習」の時には、しゃべらずに口を閉じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短い時間を設定して、その間は口を閉じておくことを知らせ「静かに」とはどうしたらいいのか、具体的に感じとれるようにしていく。 後で聞く時間を設けることで、いつ言ったらいいかわかるようにする。 きちんとクラスルールを守れている時にはほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「沈黙の練習」は口を閉じ、きちんと座ることを意識して取り組んでいる。手をあげて質問することも定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会、終わりの会、制作時など決められた場面では話を黙って聞き、質問は手をあげて言うことが定着してきた。 今後は、いろいろな場面でしゃべってはいけない時があることを知っていく。(劇ごっこの中など)
この内容の支援をお願いします。			保護者氏名		

沈黙の練習

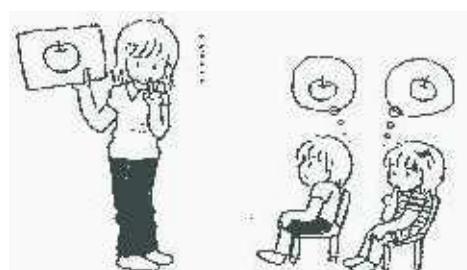
... P14②

* * * * *

「今から3枚の絵カードを見せますが、何の絵か分かっても言わずに覚えておいてくださいね。」と言ってから、絵カードを見せる。

- * この練習を繰り返すと、外言語を内言語化することや、記憶力(ワーキングメモを養うことにもつながります)
- * 絵カードの枚数の目安

3歳児ー1枚、4歳児ー2枚、5歳児ー3枚



【応用】

* 「朝の会が終わってから聞きますね。」「給食の後聞きます。」など、いつ尋ねるかを具体的に伝えておき、後から尋ねる。

* スリーヒントゲームとして楽しむ。

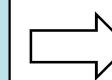
コミュニケーションを円滑にするための支援

[児童の姿]

友だちに対して、うまく思いが伝えられず叩く。

[具体的支援]

- 叩いた時や、叩きそうになった時に、保育士が「貸して」「一緒にしよう」など具体的な言い方を知らせる。



[具体的な状況]

- 言葉で伝える場面や保育士に助けを求める場面が増え、たたく回数は減った。
- 楽しい気持ちが高ぶると、無意識に手がでてしまう。
- 友だちに「たたかんといで！」と言われて気づくことがある。



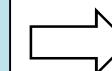
POINT



少しの時間でも叩かずに過ごせている姿を認め、「今、叩かなかったね！」と、その都度褒めることができます。“叩かずに過ごすこと”は当たり前のことのように思えますが、その子自身にとって、とても頑張っていることなので、きちんと褒めることが大切です。

[その後の具体的支援]

- 友だちにも一緒に参加してもらい、叩かずそっと身体に触るなどのロールプレーをする。
- 言葉で伝えられた時や叩かずに過ごせていることを、その都度こまめに褒める。



[その後の具体的な状況]

- ロールプレーを繰り返すことで、力加減を知り、コミュニケーションがとれるようになった。

[児童の姿]

友だちに一方的に関わり、相手の反応を楽しんだり、部屋の中を走り回っている。

[具体的支援]

- クラスルール「部屋の中では歩きます」を伝える。
- 別の遊びを提供したり「何をして遊ぶ？」と聞いたりして、自分で他の遊びを選択できるようにする。



[具体的な状況]

- 一時的にはおさまるものの、納得していない様子が見られる。落ち着くことができず、同じことを繰り返してしまう。



POINT



体を動かしたい要求を十分に保障し、活動に「動」と「静」のメリハリをつけることで気持ちも落ち着き、室内遊びでのコミュニケーションを円滑にすることができます。保育士が仲立ちとなり、遊び方や関わりの中での言葉のやりとりのモーデリングをします。

[その後の具体的支援]

- まず、戸外で思い切り体を動かし気持ちを発散することで活動のメリハリをつける。
- 室内では、友だち数人で一緒に遊べるように保育士が仲立ちとなる。



[その後の具体的な状況]

- 戸外で走ることで気持ちの発散もでき、室内では、保育士が仲立ちをすることで友だちと一緒に落ち着いて遊ぶようになる。

切りかえの弱さを補うための支援

<共に育ち合う>



ナチュラルサポーター：保育所生活を共にすごす中で、対象児に対して自然な形で配慮やサポートをする友だち

○月×日

リレーの練習で、負けるとパニックになるA児。第1走者で、相手はナチュラルサポーターのB児。B児はゆっくりと走り、A児を先に走らせてくれている。

保育士はみんなの気持ちを考えると、これでよいのかと悩むが、A児が負けて泣いて走らず、リレーが中断するのは避けたいと思う。



○月×日

A児を含んだ集団作りとして、リレーを成功させる方法を悩んでいたので職員会議で話し合う。「ぼくらだって本気で走りたいねん！」という5歳児の一人一人の気持ちや、いつもA児を先に走らってくれるB児の気持ちを考え、『負けても最後まで走る』というクラスルールを作り、担任だけでなく職員全員でバックアップすることにする。他クラスのこどもや保育士がリレーの応援に行き、運動会当日に向けてのシミュレーションをすることにする。当日まで一週間だが頑張ろう。



○月×日

全力のリレーが始まった。A児は負けると引っくり返って泣きバトンを投げていた。そこでこどもたちに、どのようにリレーを進めていけばいいのか、を投げかけ話し合いを行う。作戦会議の結果、A児の前に走るC児が「僕がA児にバトンを1番で渡してあげる。だから、A児も最後まで走りや」と言い、A児も納得してパニックが減っていった。



○月×日

作戦会議を繰り返す中、A児はC児の次の二番走者になった。A児のチームが勝っていると喜び、負いていると泣きそうになり、毎回、手に汗を握っている。

今まで第一走者で勝つ体験しかしていなかったが、友だちに助けられ、話し合いを通して気持ちが切りかえられ、クラスルールを守れるようになってきた。

B児を含むチームは、「やったー！本気で走れる。」「今度は負けへんで。」「(A児に)負けても泣いたらあかん。」など気持ちが盛り上がってきている。

○月×日

運動会当日。C児がA児にバトンを渡した。相変わらず、味方の勝敗に一喜一憂していたが、少しずつ気持ちを切りかえることができるようになり、リレーが終わるまで応援することができた。運動会の取り組みを通してA児の気持ちだけでなく、クラス集団としての成長が感じられた。

POINT

子どもの姿の受け止めや、支援の中で悩んだことは、支援会議を通して職員間で共に考え、保育所全体で共有して支援に取り組むことが大切です。職員集団の気づきや高まりも支援の充実につながります。

取組みの中で揺れ動く対象児の様子を保護者にも伝えて共有し、保護者にも認めてもらう言葉かけをしてもらうなど、保護者の力を借りするのもいいですね。

POINT

勝敗や1番になることにこだわりがある場合、1番に走ることや距離を短くするなどの方法をとることが多いのではないでしょうか。しかし、5歳児になると一人一人の力が高まり、集団としてのまとまりや力も育ってくるので、ナチュラルサポーターや周りの友だちの意見を取り入れ、集団作りをしながら取り組めるようになります。対象児が自分の気持ちをコントロールする力がつくように、一步進んで、集団遊びやリレーでは共に育ちあう関係作りにつなげていきましょう。

不安感を和らげるための支援

[児童の姿]

初めてのこと、新しいことにはなかなか取り組めない。取り組むまでに時間がかかる。

[具体的支援]

- 事前に絵カードを見せたり、やって見せたりするなど、具体的に知らせる。

[具体的な状況]

- 簡単な体操などは、事前に知らせる事で参加できるが、ルールのあるゲームには参加しない。

POINT



どうしたらいいかわからないという事が不安につながり、活動に参加できなかったので、見てることでやり方もわかり不安を解消することができます。

また、全部参加しなくても、見てるだけもいいし、できるところから参加すればいい、という事を伝える事で安心して参加することができます。

[その後の具体的支援]

- 見ているだけでも良いという事を知らせることで、自分で「見ておきたい」と言えるようになる。

[その後の具体的な状況]

- どんなことをするのか見ていることで不安が和らぎ、初回は見てるだけだったが、次回より少しずつ参加するようになる。

[児童の姿]

しっぽとりで、しっぽをとられると怒り相手を叩く。

[具体的支援]

- 相手から離し、落ち着くまでそっとしておく。

[具体的な状況]

- ルールを説明しても、しっぽをとられることが嫌で怒り続ける。

POINT



自分の物を取られることは、遊びとして理解しがたく、不安な気持ちが攻撃として表れていきました。しっぽとりをするだけで嫌な経験がフラッシュバックするので、クールダウンやルールの変更では乗り越えられないと考え、遊び自体を変えてみることで、集団のあそびにも参加できるようになりました。

[その後の具体的支援]

- しっぽをとられることが不安なので、物を取られない鬼ごっこ(氷鬼)で、鬼ごっこ楽しさを知らせる。

[その後の具体的な状況]

- 不安が和らぎ、安心して友だちと一緒に楽しむことができる。

個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
社会性	<ul style="list-style-type: none"> しっぽとりでは、逃げている時はうれしそうだが、しつぽを取られると興奮し、怒って友だちを叩いてしまう事があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に氷鬼をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 鬼の帽子の色を変え、見本を示しながらルールをわかりやすく説明する。 遊んだ後は「みんなで遊んで楽しかったね」と共感するようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールが分かり、タッチされても怒らずに楽しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団遊びが楽しいと思えるようになってきているが、内容によっては今の段階では楽しめず、不安を感じる事が分かった。今後も集団遊びの内容、ルールを考え、友だちと一緒に遊ぶことが楽しいと感じられる経験を積み上げていく。
この内容の支援でお願いします。			保護者氏名		

※遊びに、ひと工夫することで、不安を和らげることもできます。

たとえば…

○すごろく1回休みカード 1回休みの目に入った時に、1回休みカードを取り、次の順番の時に出す。

カードを出すことで、順番をとばされるという不安を和らげることができます。…P14③



○おかわりしっぽとり

しっぽを取られても所定の場所からしっぽをもらうことができ、引き続き遊びに参加できるようにします。

取られても終わりではなく、また参加できるということで安心できます。

初めは、何本でももらうことができるところから始めて、次は3本まで、次は1本だけもらえると少しづつ減らしていくことで、スマールステップで不安を和らげていくことができます。…P14④

第2章 乳児期における『気になるこども』に関する 気づきの観察事項（チェックリスト）の活用について

◇ 保育士の気づき

赤い色のブロックや積み木ばかり集めて持ち歩いている、一人遊びが多く他の子どもの遊びに興味がない、友だちが歌う声や体操の曲を嫌がって耳をふさぐ、回るものや光るものを好んで見る（見え方を楽しむ）、抱っこしても身体が添わない、などの姿に出会うことはありませんか。広汎性発達障害については、3歳児以降に確定診断がつくことが多いのですが、その特徴は乳児期に気づくことも多くあります。乳児期から保育所で過ごす子どもの気になる姿に対して職員で共通理解を図り、予防的な取組みを進めるため【乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）】を参考に、注意深く見守りましょう。

◇ 予防的取組みと大切にしたいこと

チェックリストをつけることで見えてきた子どもの姿に目を向け、この時期に予防的な支援をすることが大切です。

遊びに集中しにくい子どもであれば落ちつく環境を用意し、積み木遊びで積み木を高く積んでいくことにじっくりと関わったり、指さしに応じながら1対1で絵本の読み聞かせを行い、語彙を豊かに語りかけたり、ままごと遊びで行動や物と言葉を一致させるやりとりをするなど、保育士が意識的に関わりを持ちます。毎日少しづつでも、このような遊びで個別に継続的に関わることで、抑制する力が育ち集中することができるようになります。

この意識的な関わりを担任同士で共有し継続させること、それが乳児期における子どもへの援助なのです。複数で関わることの多い乳児クラスでは、特に保育士集団の共通理解と共通した援助が大切です。

乳児期の支援の土台は、保育士との安定した人間関係であり、困った時や不安な時には特に同じ保育士が同じように対応することで、大人への信頼関係が育ちます。この時期の一人一人への丁寧な関わりが土台となり、スムーズに幼児期の生活に移行していきます。乳児期のあいだに予防的な取組みを行うことが『支援の始まり』です。

不安感のあるAちゃん



2歳児より入所したAちゃん。初めてのことや、知らない場所に対しては不安な様子を見せ、クラス以外の部屋に入るのを嫌がる姿がある。担任が一緒にいれば、その場にいることができるが、落ち着かない様子を見る。家庭ではオムツを使用しており、トイレに誘うことはまだしていないが、母親は、そろそろ始めようかな…とは思っている。保育所でトイレに行くことを促してもとても嫌がり、保育士が一緒について連れていくが、なかなか慣れず落ちつかないので、トイレで排泄をしたことはない。毎日の生活の流れは理解していて、言葉がけで行動でき、身のまわりのことはほぼ一人でしようとしている。

友だちには興味・関心を見せ、自分から関わろうという姿があり、簡単な言葉のやりとりをしながら好きな遊びを楽しんでいる。落ちついて遊んでいることが多いが、つま先歩きをしたり、歌を歌う時はじっと立っていることが難しく、飛び跳ねていることが多い。

☆家庭でも、トイレでの排泄を始めようかと思っていることもあります「トイレを嫌がる・怖がる」に気がついているので、この姿からのスマートルステップを考えることが大切です。

☆不安要素を取り除いたうえで排泄のステップを踏むための手立てとして、1番慣れている保育室にオマルを用意します。最終的にはトイレで排泄することを目標にするので、オマルを置く場所はトイレの様子が見える場所にし、友だちがトイレに行く様子を意識的に見せるようにしましょう。

☆不安(困り)を減らす工夫をすることで、不安が消えてできることが増えるので、その姿を認め共感します。できるだけ決まった保育士が関わり「Aちゃんのそばにはいつも先生がいるよ。だから大丈夫」と、意識した関わりをかけ、安定した関係を築きましょう。

保育士の気づき(気になる姿)

- 初めての集団生活なので、入所当初は不安や緊張も大きいかと思われたが毎日の生活の流れがわかりスムーズに生活を送れるようになってきても、トイレに行くことは頑なに嫌がる。
- 生活と同じようにクラスの様子に慣れてくると、友だちとの関わりも喜んでいるが、集会等で場所を移動したり大きい子が関わろうしてくれることには緊張し、担任がそばにいても不安な様子を見せる。
- 落ちついて遊ぶ姿がある反面、活動によっては集中することが難しいのか、ピョンピョン飛び跳ねたり、つま先立ちで目的なく動く姿も見られる。

保育の中で工夫したこと(手立て)

- ◇トイレに行く事を重視するのではなく、オマルに座ることに慣れることを目標とし、落ち着ける場所として部屋のすみにオマルを置く。
- ◇ゆったりと関わり排泄を誘う言葉をかける。
- ◇オマルに座ることを促した時や、不安を感じる場面や活動は予測されるので、特定の保育士ができるだけそばにいるようとする。
- ◇集中しにくい姿や、気になる行動が見られる場面や活動を見極め、意識的に好きな遊びに誘う。

子どもの反応・変化

トイレの入り口付近にオマルを用意するとすぐに興味を示す。「このオマルでおしっこするんだよ。座ってみようか。」と誘うと「うん。」と嫌がることなく自分で座ることができた。初めておしっこが出たときには「あ～。」と指さし「おしっこ出たね。」と言うと「でった～。」と笑顔を見せる。保育所の生活に慣れ、主に関わる保育士を『自分の先生』とわかつってきたようで、自分から安心できる保育士のそばに来るようになり、違う場所でも笑顔で参加できることが増えてきた。場面によっては目的なく動く姿はまだ見られるが、友だちとの遊びに誘うと喜んで入ってくる。

乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）

2歳児 名前 A

年 月 日

	項目	チェック欄
生活面	▪ 生活習慣全般において、積み重ねることが難しい。	
	▪ 好き嫌いが多い。（食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など）	
	▪ トイレを嫌がる、怖がる。	○
	▪ トイレの水や水道の水をよく流す。	
	▪ 気にいった服ばかり着る。	
	▪ ちょっとした汚れが我慢できず、着替える。	
	▪ 布団に入ることに抵抗を示す。（抱かれていないと眠らない）	
	▪ 睡眠のリズムがつきにくい。	
	▪ 汚れた時、ふいてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる。	
運動	▪ 抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない。（抱っこを嫌がる）	
	▪ ハイハイにならない。（親指でけらない、いつまでもずりばいになる等）	
	▪ かかとをつけずにつま先で歩く。	○
	▪ 歩き方や身体の動きがぎこちない。 (バランスよく動かせない、階段の上り下り等)	
	▪ 両足跳びができない。	
	▪ よく転ぶ。	
	▪ 手先の動きが不器用である。（積み木を積む、絵本のページをめくる等）	
遊び	▪ 粘土やのり等の触感を嫌がる。	
	▪ 音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる。	
	▪ 物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ。	
	▪ 特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする。	
	▪ 本来のおもちゃの扱いをしない、遊ばない。（物を何でも回す、並べる等）	
	▪ サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない。（筆圧が弱い）	
	▪ ことばや動作のまねをしない。	
	▪ 人より物に興味を示す。（光る物、回る物、鏡等）	

認知・言語面	▪ 物を渡してお願い（例えば、絵本を持ってきて読んでほしいことを示す等）をすることができない。	
	▪ 指差しをしない。	
	▪ 意味のあることばをしゃべらない。	
	▪ エコラリア（オウム返し）がある。	
	▪ 場に合わないことばやコマーシャルのフレーズを言うことが多い。	
	▪ ことばが増えず、語彙が少ない。	
	▪ 発音が不明瞭で聞き取りにくい。	
	▪ 単語が中心で2~3語文で話せない。	
	▪ 指示の意味がわからない。（ことばの理解が悪いように感じる。）	
行動・社会性・コミュニケーション	▪ 呼びかけに反応しない。	
	▪ 視線が合わない。	
	▪ 初めてのことや、初めての場面を嫌がる。	○
	▪ 落ち着きがない。（常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい等）	○
	▪ 何もなくとも、甲高い声や大声を発する。	
	▪ 周囲に関心を示さない。	
	▪ 表情が乏しい。	
	▪ 困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる。	
	▪ 大人（母・保育士）への愛着が強すぎる。（弱すぎる）	
	▪ 手をつなぐのを嫌がる。	

遊びにこだわりのあるBくん

2歳児より入所したBくん。友だちや友だちのしている遊びには興味を示さず、あちらこちらといつも動いている。

生活面では周りの様子を見て行動していることが多く、トイレの前までは行くが、排泄せずに戻ったり手を洗わずに座っている。また、友だちが座ると同じように座ったり、外遊びのためにテラスに行くと一緒にテラスに出るなど、周りを見て動いている。ブロック遊びでは特定の色や形にこだわりがあり、赤い色ばかり集めるが持っているだけで満足し、ブロックでの本来の遊び方にならない。電車が好きでいつも電車の玩具を手に持ち、部屋の隅のお気に入りの場所に並べてみたりしている。語彙数が少なく、不明瞭なため、保育士や友だちとのとのコミュニケーションも難しい。

☆好きな遊びの中で、保育士が「一緒にやね。」「おもしろいね。」など言葉かけしながら、友だちと関わる機会を作っていく、友だちの遊びにも興味を持てるようにしていきます。

☆「特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする」に気がついているので、遊びが広がる工夫をしながら、その遊び方の見本を示します。

☆Bくんが楽しんでいる遊びに共感し発話を受けとめながら、語彙が広がるよう意識した言葉のやりとりをしましょう。

☆複数担任間では、こどもに同じ対応ができるように常に話し合いを持ち、子どもの姿や家庭の状況等、情報を共有し意思一致することが大切ですね。

保育士の気づき（気になる姿）

- 特定の色や形にこだわりがあり、電車の玩具をいくつも手に持っている。
- 電車を一列に並べているところに友だちが来て列が崩れると、泣き叫びながら元に戻そうとする。
- 遊びの中では友だちに興味を示さないが、生活面では友だちが移動したりするのをよく見ていて、一緒についていく姿が見られる。しかし、全体への指示や生活の流れが理解できていない。

保育の中で工夫したこと（手立て）

- ◇保育士との安定した関係を作るため、特定の保育士と一緒に遊ぶようにする。生活の場面では個別に声をかけ、友だちの行動と結びつける。
- ◇好きな遊びをしている時に保育士が寄り添い、見本となる遊びを楽しみ遊び方を知らせていく。また、一定興味が向いてきたら保育士が仲立ちとなって、同じ遊びをしている友だちがいることを知らせていく。
- ◇興味を持って遊んでいる時に、語彙が広がるようにはっきりと言葉かけたり、意識して言葉のやりとりをする。
- ◇お気に入りの場所に板を斜めにして坂を作る・どの電車が長く走るか比べる・電車の写真を撮ってカードにし絵合わせをする、など遊びを広げる。

子どもの反応・変化

保育士との信頼関係が少しずつできてきて、生活面では1対1で保育士がゆっくりと次の活動を話すと、理解して行動しようとしている。

電車遊びでは、平行遊びではあるが保育士がそばで見守っていると、一緒に遊ぶことは嫌がらなくなってきた。また、箱の中に電車を並べたり、違う電車と入れ替えてみるなど、自分で遊びを発展させて楽しむ姿もあり、楽しさを自分なりの言葉で伝えようとするようになる。

友だちとのトラブルは泣いて訴えるが、保育士が気持ちを代弁すると落ちつき、切り替えられるようになる。

乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）

2歳児 名前 B

年 月 日

	項目	チェック欄
生活面	▪ 生活習慣全般において、積み重ねることが難しい。	○
	▪ 好き嫌いが多い。（食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など）	
	▪ トイレを嫌がる、怖がる。	
	▪ トイレの水や水道の水をよく流す。	
	▪ 気にいった服ばかり着る。	
	▪ ちょっとした汚れが我慢できず、着替える。	
	▪ 布団に入ることに抵抗を示す。（抱かれていないと眠らない）	
	▪ 睡眠のリズムがつきにくい。	
	▪ 汚れた時、ふいてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる。	
	▪ 抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない。（抱っこを嫌がる）	
運動	▪ ハイハイにならない。（親指でけらない、いつまでもずりばいになる等）	
	▪ かかとをつけずにつま先で歩く。	
	▪ 歩き方や身体の動きがぎこちない。 (バランスよく動かせない、階段の上り下り等)	
	▪ 両足跳びができない。	
	▪ よく転ぶ。	
	▪ 手先の動きが不器用である。（積み木を積む、絵本のページをめくる等）	
	▪ 粘土やのり等の触感を嫌がる。	
遊び	▪ 音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる。	
	▪ 物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ。	
	▪ 特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする。	○
	▪ 本来のおもちゃの扱いをしない、遊ばない。（物を何でも回す、並べる等）	○
	▪ サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない。（筆圧が弱い）	
	▪ ことばや動作のまねをしない。	○
	▪ 人より物に興味を示す。（光る物、回る物、鏡等）	
	▪	
	▪	
	▪	

認知・言語面	▪ 物を渡してお願い（例えば、絵本を持ってきて読んでほしいことを示す等）をすることができない。	
	▪ 指差しをしない。	
	▪ 意味のあることばをしゃべらない。	
	▪ エコラリア（オウム返し）がある。	
	▪ 場に合わないことばやコマーシャルのフレーズを言うことが多い。	
	▪ ことばが増えず、語彙が少ない。	○
	▪ 発音が不明瞭で聞き取りにくい。	○
	▪ 単語が中心で2~3語文で話せない。	○
	▪ 指示の意味がわからない。（ことばの理解が悪いように感じる。）	○
	▪	
行動・社会性・コミュニケーション	▪ 呼びかけに反応しない。	
	▪ 視線が合わない。	
	▪ 初めてのことや、初めての場面を嫌がる。	
	▪ 落ち着きがない。（常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい等）	
	▪ 何もなくとも、甲高い声や大声を発する。	
	▪ 周囲に関心を示さない。	
	▪ 表情が乏しい。	
	▪ 困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる。	
	▪ 大人（母・保育士）への愛着が強すぎる。（弱すぎる）	
	▪ 手をつなぐのを嫌がる。	

発音が不明瞭な Cくん



2歳児より入所したCくん。視線がなかなか合わず、名前を呼ばれても遊びに集中していたり、どこか違う方向を向いていて反応が無いことが多い。小さい時から抱っこされることを好まず、抱いても体が添わなかつたと母親は話している。保育士や友だちと一緒に遊ぶことを嫌がることはほとんどないが、集団遊びなどでは手をつなぐことを極度に嫌がる。

単語は少し話すようになってきているが、不明瞭なので友だちとのコミュニケーションが取りにくい。保育士が話しかけるとエコラリアで返ってくることが多く、発語は「あんばんまん」は「あんまん」、「だんごむし」は「・・(あ～) むし」になる。

外遊びでは砂がつくるを嫌がり砂遊びはしない。また、のりの感触や絵の具なども手や服につくと、大泣きして気持ちが大きく乱れる。きれいにすると落ちつきを取り戻す。

- ☆好きな遊びでのやりとりや一緒に絵本を見るなどの中で、子どもの言葉を引き出すようにしますが、やりとりを楽しむことを大切にして、言葉が不明瞭なところは言い直すことを強制せず、保育士がゆっくり丁寧に反復し、正しい言葉やイントネーションを知らせてていきます。
- ☆日頃から、挨拶や手遊びなどの楽しい雰囲気の中で、友だちとふれ合う体験を重ねましょう。
- ☆嫌がることは無理強いせずに、別の関わり方や方法を知らせていくことも大切です。

保育士の気づき（気になる姿）

- 生活や遊びの中で話したい気持ちは持っているが、発音が不明瞭だったり「おくすり」が「おすくり」になるなど聞きとりにくい。また、発語は単語が中心である。
- 友だちとの遊びの中で、言葉でうまく言えないために、わかってもらえないかったり、トラブルになることが増えてきた。
- ふれあい遊びや集団遊びの中で手をつなぐのを嫌がる姿や、感覚過敏のある姿がある。

保育の中で工夫したこと（手立て）

- ◇気持ちに寄り添い、場面や行動に合った言葉を保育士がゆっくり・はっきりと話しかけたり、代弁して知らせていく。
- ◇保育士は正しい言葉やイントネーションで言葉を返すように心がける。
- ◇こどもの一語文を二語文で返すように意識する。
- ◇静かな場所（聞きとりやすい）で絵本と一緒に見て、言葉を引き出す。
- ◇手をつなぐことを無理強いせず、物（ハンカチ・人形など）を媒介としてつなぎ、遊びの楽しさを知らせていく。また、のりを使う時はスティックのりを使うなど、直接手につかないようにする。

子どもの反応・変化

全体指示には戸惑う姿が見られるが「外に遊びに行くから、先にトイレに行こうね。」「おもちゃを片づけて、おやつを食べるよ。」と、そばで個別に声をかけて次の行動を知らせると、理解して自分で行動するようになる。また、視線が合うようになり、保育士の言葉を復唱したり、自分から話しかけてくる姿が増えた。友だちの様子を見て、ふれあい遊びにも参加するようになり、物を媒介にすることで、誰とでも手をつなげるようになってきている。また、保育士が仲立ちすると、友だちと「タッチ！」と言って、手と手を合わせて喜び合う姿も見られるようになる。

乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）

2歳児 名前 C

年 月 日

	項目	チェック欄
生活面	▪ 生活習慣全般において、積み重ねることが難しい。	
	▪ 好き嫌いが多い。（食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など）	
	▪ トイレを嫌がる、怖がる。	
	▪ トイレの水や水道の水をよく流す。	
	▪ 気にいった服ばかり着る。	
	▪ ちょっとした汚れが我慢できず、着替える。	
	▪ 布団に入ることに抵抗を示す。（抱かれていないと眠らない）	
	▪ 睡眠のリズムがつきにくい。	
	▪ 汚れた時、ふいてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる。	
運動	▪ 抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない。（抱っこを嫌がる）	○
	▪ ハイハイにならない。（親指でけらない、いつまでもずりばいになる等）	
	▪ かかとをつけずにつま先で歩く。	
	▪ 歩き方や身体の動きがぎこちない。 (バランスよく動かせない、階段の上り下り等)	
	▪ 両足跳びができない。	
	▪ よく転ぶ。	
遊び	▪ 手先の動きが不器用である。（積み木を積む、絵本のページをめくる等）	
	▪ 粘土やのり等の触感を嫌がる。	
	▪ 音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる。	
	▪ 物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ。	
	▪ 特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする。	
	▪ 本来のおもちゃの扱いをしない、遊ばない。（物を何でも回す、並べる等）	
	▪ サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない。（筆圧が弱い）	
	▪ ことばや動作のまねをしない。	○
	▪ 人より物に興味を示す。（光る物、回る物、鏡等）	

認知・言語面	▪ 物を渡してお願い（例えば、絵本を持ってきて読んでほしいことを示す等）をすることができない。	
	▪ 指差しをしない。	
	▪ 意味のあることばをしゃべらない。	
	▪ エコラリア（オウム返し）がある。	○
	▪ 場に合わないことばやコマーシャルのフレーズを言うことが多い。	
	▪ ことばが増えず、語彙が少ない。	
	▪ 発音が不明瞭で聞き取りにくい。	○
	▪ 単語が中心で2~3語文で話せない。	○
	▪ 指示の意味がわからない。（ことばの理解が悪いように感じる。）	○
行動・社会性・コミュニケーション	▪ 呼びかけに反応しない。	
	▪ 視線が合わない。	○
	▪ 初めてのことや、初めての場面を嫌がる。	
	▪ 落ち着きがない。（常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい等）	
	▪ 何もなくとも、甲高い声や大声を発する。	
	▪ 周囲に関心を示さない。	
	▪ 表情が乏しい。	
	▪ 困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる。	
	▪ 大人（母・保育士）への愛着が強すぎる。（弱すぎる）	○
	▪ 手をつなぐのを嫌がる。	○

乳児支援グッズ

椅子の工夫



スケジュール表



背の高さに合わせて、足置き台を置きます。

背当てをお尻の大きさに合わせて入れると、足と背中がきちんとつくので姿勢が安定します。

時計



見通しがつくよう
に、知っている果物で表示します。

半日の流れを、イラストを使って知らせます。流れがわかると安心して過ごすことができます。

着替えの手順表

服のたたみ方



簡単な手順を示すと、2歳児なら楽しみながらまねっこします。



イラストで、4つの手順にして示すことで、乳児にもわかりやすくなり、自分でしようという、意欲につながります。

タオルかけ



トイレの座る向き



帰る用意



生活の中でも、指先を使う工夫をしています。

自分でわかつて行動します。

水の量を、絵を合わせて調節します。

水道の蛇口・カップに入れる量



ひもとおし



玩具は1人分ずつ分けて準備しておくことで、トラブルになることが減り「自分の分」がわかることで、安心して遊べます。

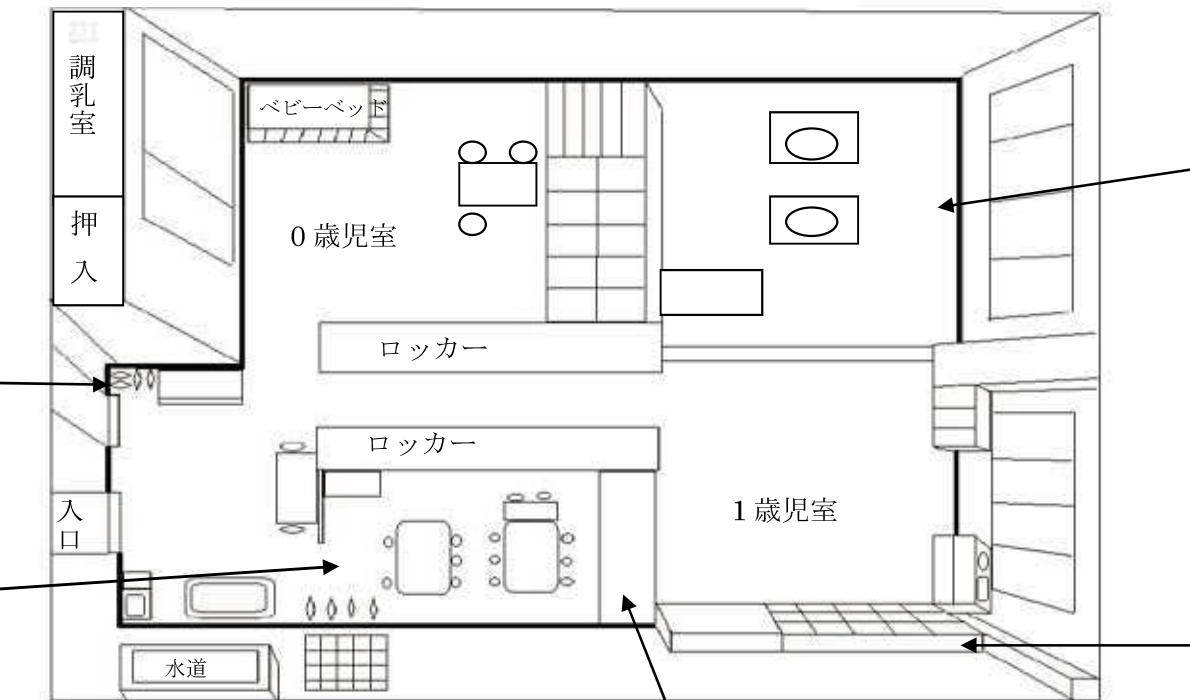
乳児保育室の構造化

食寝分離

食事スペースと午睡・遊びスペースを分け生活していく室内環境です。

食事→遊び→食事→午睡と、こどもが「次はここで〇〇する」と生活の流れを理解し活動できるよう部屋を作っています。

分離することが難しい保育室の場合は、子どもの動線を考え、見通しを持って生活できる環境を工夫できるといいですね。

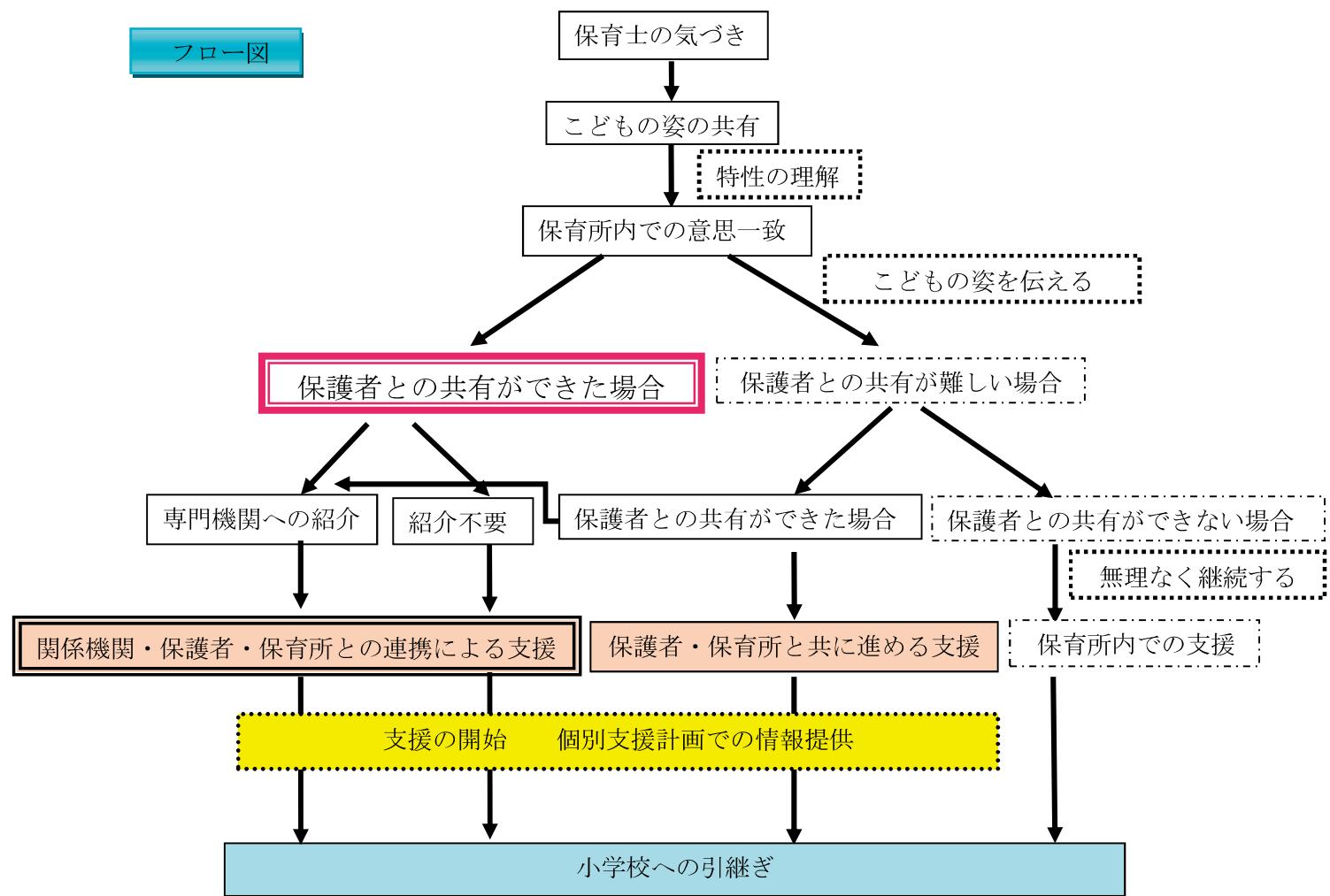


第3章 保育所内支援体制づくり～保護者と共にすすめる支援～

『できた！わかった！たのしいよ！』第3章では、保育所内支援体制づくりとし、「個別支援計画・個別指導計画・保育所内支援会議の役割・保護者との連携・乳児期の気になるこどもについて」まとめてきました。保育所保育指針では「障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置づけ、支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること」と示されています。

今回は、保護者と共に進める支援として、保育所での支援のプロセスを具体的に掲載しました。参考にしていただき保育所で活用してください。

フロー図



I 個別支援計画と個別指導計画の作成と支援の流れ

□ 個別支援計画・個別指導計画の作成にあたって

個別支援計画の作成にあたって保護者の願いや思いをひき出し、必要な情報を収集します。保護者の積極的な参画を促すためには、保護者の思いに寄り添い、傾聴・共感・受容の姿勢で信頼関係をつくっていくことが大切です。『保護者は一番の支援者』であることを認識し、支援の中で保護者の役割を明確にすることも大切です。

個別指導計画は特性を理解したうえで担任が作成し、所内支援会議で内容の確認・共有を行い、職員全員で共通理解を図ります。子どもの強みを生かし困りを改善していく為の計画として、子どもの姿を見極め、スマールステップでねらいを設定するとともに、子どもに関わる全ての職員が同じ支援ができるように、手立てや支援を具体的に記載します。

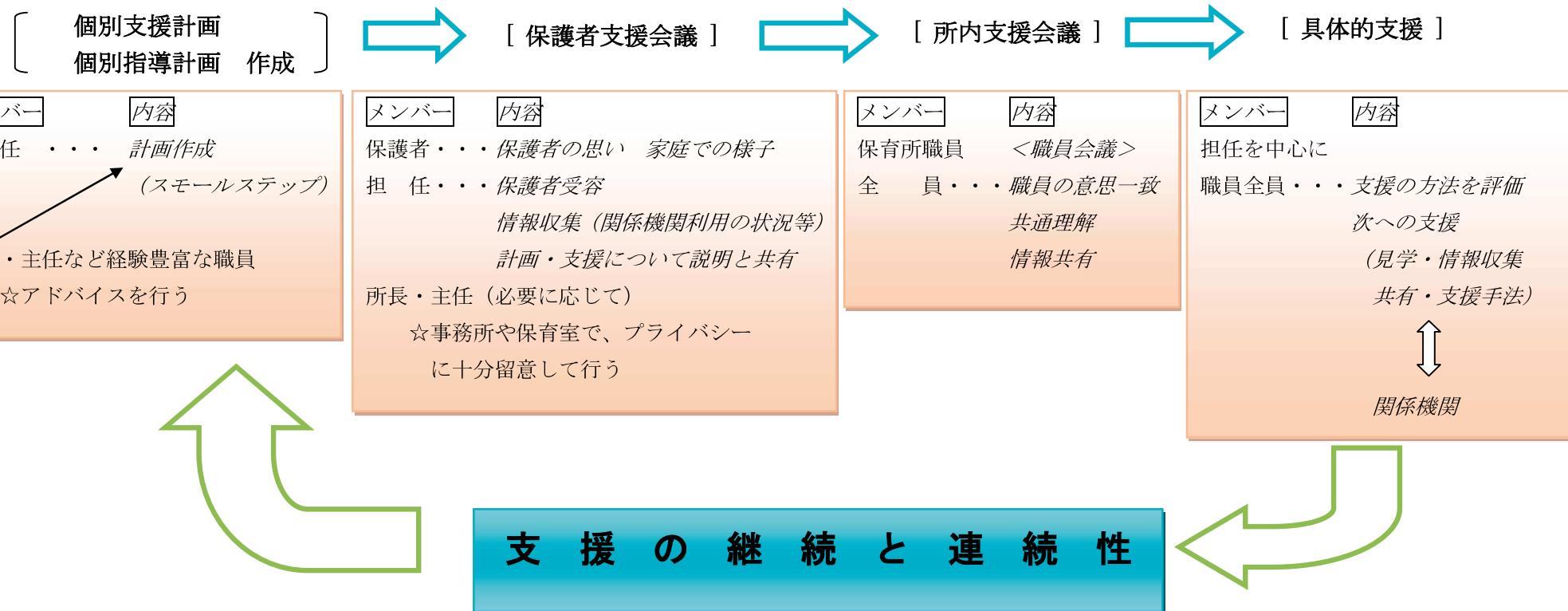
保護者の思いと支援ニーズが一致しないこともあります、子どもの実態の共有をくり返し、子どもの困りに対する支援の優先順位について十分に話し合い、「計画を共に作成する」という思いで、根気よくアプローチを続けましょう。

□ 個別支援計画・個別指導計画の管理について

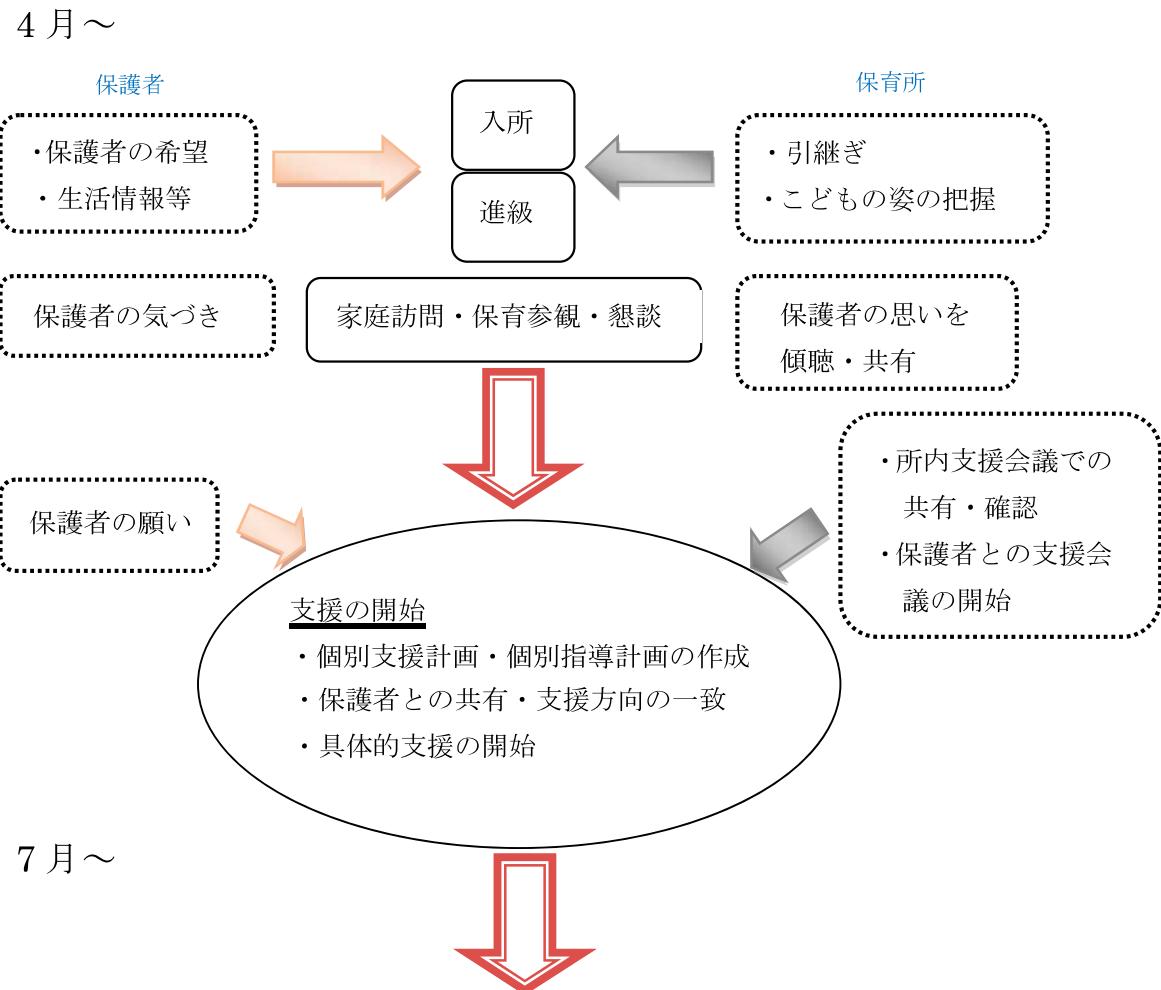
記載されている内容は、プライバシーの保護が最も必要とされる情報であり、その内容については『守秘義務』があるということを、職員一人一人が十分に認識する必要があります。職員間で共通理解するためには、閲覧の工夫は必要ですが、管理には特段の配慮を行うようにします。各所（園）で十分に検討し、個人情報の保護に努めるとともに、機関連携として活用する際には、必ず保護者の了解のもとで利用します。



□ 計画作成と支援の流れ

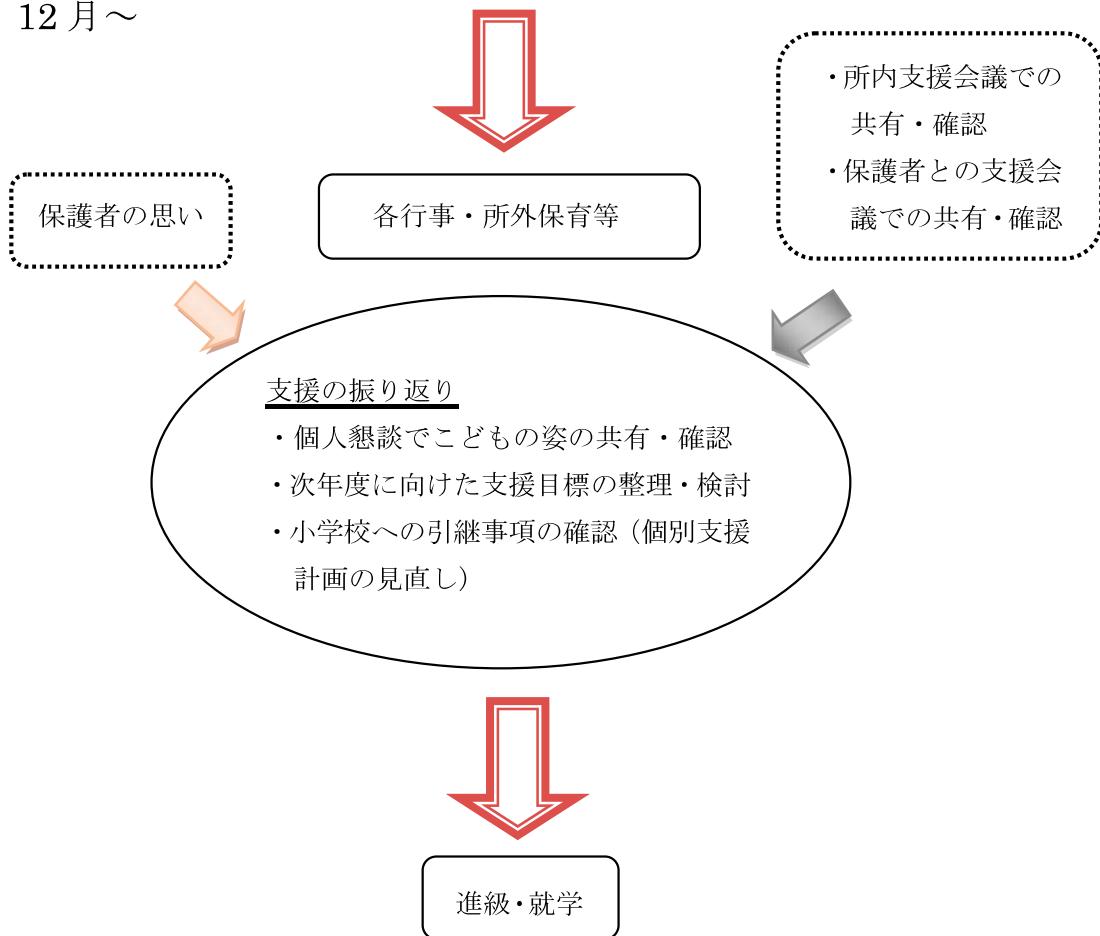


□ 保護者支援の流れ（タイムスケジュール）



具体的支援	
<全クラス>	<5歳児>
4月	
<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの様子を伝える ・こども（対象児）の姿を伝える ・保護者の思いを引き出す ・情報を聞きとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けて（保護者の思いを聴きながら、支援学級・特別支援学校の見学をすすめる）
5月	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所での姿を伝え、家庭での様子を聞く（以降、必要に応じて適宜） ・個別支援計画の内容を確認する <p>保護者の思い・願い 関係機関の利用（担当者の氏名と内容） 1年間の保育目標・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就学先の決定
<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画の内容について（対象児の姿に合わせて期間設定し適宜） 	
6月～	
<ul style="list-style-type: none"> ・夏の生活について 	
8月～	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会に向けてのとりくみについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学先との具体的な連携の開始
9月～	
<ul style="list-style-type: none"> ・所外保育での支援について 	

12月～



10月～

- ・発表会に向けてのとりくみについて

12月～

- ・個人懇談
- ・進級に向けて、関係機関との連携について再確認をする

2月～

- ・1年の支援を振り返る

3月

- ・引継ぎ

- ・就学前健診
- ・就学先での実態把握と連携
- ・就学先の交流会など、行事参加への支援について
- ・就学先への個別支援計画の提出に関する相談と内容の確認
- ・引継ぎ準備
- ・サポートブックを作成している場合は、引継ぎに活用する。
- ・保育所児童要録と共に、個別支援計画を就学先へ提出する（保護者了解のもと）



障がいのある子どものより良い就学に向けて

〈市町村教育委員会のための就学相談・支援ハンドブック〉

※大阪府教育委員会作成の冊子に、具体的な内容が掲載されていますので、参考にしてください。

（大阪府ホームページに掲載）



II 保護者の心情理解

～保護者が子どもの状況を受容するまでのプロセス～

支援や療育に積極的に取りくむためには、子どもの状況を受容することがポイントです。しかし、受容のプロセスはそう簡単ではありません。

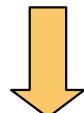
障がいがあることがわかった時の強い『ショック』

ショックを和らげるためにおきる『否認』『怒り』『悲しみ』

怒りや悲しみを乗り越えて受容と現実への『適応』

受け入れ・責任遂行『再起』

障害受容のプロセス
(ドロータ. 1975)



それぞれの段階の長さは人によって異なり、プロセスも一度で終わるものではなく、さまざまな場面で繰り返されます。

保育所（園）側が、保護者と連携をしながら支援をすすめたいと思っても、保護者からは「まだ小さいから」「お父さんも子どもの頃はこんな感じだった・・・っておばあちゃんが言ってた」「いつかは治る」などの言葉を聞くことがしばしばあります。この段階では育てにくさを感じていても、保護者的心の準備が十分でなく『障がい』の受容がまだできていないといえます。

プロセスに示しているように、障がいの受容までには段階があるので、保育士がこの段階を理解することができれば、保護者への対応も変わってきます。アプローチを急がず、保護者の気持ちや考えにじっくりと耳を傾けながら、保育の中ではていねいな行動観察に基づいた支援を続けましょう。そして、子どもの困りを軽減するための手立てを、具体的に繰り返し伝えます。保護者の思いに寄り添いながら、『保護者は一番の支援者』であることを認識して、時間をかけて相談を継続していきます。

保護者と信頼関係を築き、適切な支援があることで、子どもの自己肯定感は高まり生活や遊びが豊かになります。保護者と互いに喜びあえるような連携を深め、支援を継続していきましょう。

できた！わかった！たのしいよ！パートⅡの刊行にあたって

大阪府立大学教育福祉学類

准教授 里見恵子

発達支援プログラム冊子“できた！わかった！たのしいよ！”ができたのが、平成24年3月でした。それから1年半を経て、応用編ができました。応用編まで作成するとは思ってもいませんでしたので、発達支援プログラム冊子を、保育士が実践で本当に使った結果であると嬉しく思いました。パートⅡの応用編は、発達支援プログラム冊子を使ってみると、その通りうまくいかなかつたという結果から、新たに生まれた支援方法です。“支援がうまくいかないので、あきらめた！”とはならず、“どうしたら支援がうまくいくのか”を現場の保育士が考えた成果です。支援をあきらめない前向きな姿勢が、この冊子を生みました。

また、障がいのある子どもたちへの支援は、3歳児から始まることが多いのですが、乳児期においても、すでにその兆候が見られ、そのことに現場は気づいていました。パートⅡ応用編では、改めて乳児期に焦点をあてたところにも大きな意義があります。保育士が何らかの発達における兆候を見つけた段階で対応することで、保育所への適応や発達を助けることにつながります。この予防的に取り組みを開始しておくことが、対象児の抱える課題を小さくし、保育における保育士や保護者の負担を減らしていくことにつながります。大阪市公立保育所が、このような予防的取り組みに積極的に目を向けていることが、伝わってきました。この冊子の発刊を機会に、乳児保育での予防的な取り組みが広がることを期待します。

今回の冊子では、保護者と共にすすめる支援として、保護者理解のための基礎知識や、保護者と共に作成する個別支援計画と個別指導計画の方法と手順も書かれています。保護者の理解を得て、共に個別支援計画と個別指導計画を作成することを、更にすすめて欲しいと願っています。保護者の理解を引き出し、共に支援ができると、子どもがぐんと成長することは、日頃の保育実践で常々感じているはずです。保育所に在園中に、保護者がわが子の障がいを理解し支援の方法を知ることは、その先の教育においても支援を受けやすくし、子どもの生きやすさにつながります。

このパートⅡ応用編を使った、障がいのある子どもの保育実践が広がることを心から期待しています。次には、乳児期における実践例、保護者支援例、発達障がい児以外の障がいのある子どもへの支援の方法についても、まとめていただけたらと思います。

【発達支援モデル研究】

スーパーバイザー 助言者

大阪府立大学

准教授 里見 恵子

モデル保育所

大阪市立

天王寺保育所

東中浜保育所

加島第1保育所

加美第1保育所

矢田教育の森保育所

姫島保育所

大浪保育所

千本保育所



できた！わかった！たのしいよ！パートⅡ
～そう感じができる保育を～

発行 大阪市こども青少年局保育施策部保育所運営課

大阪市北区中之島 1-3-20

電話 06-6208-8120

FAX 06-6202-9050

平成27年3月

